

平成 28 年度 第 2 回名護市総合教育会議 会議録

|                |  |
|----------------|--|
| 日 時            | 平成 28 年 1 1 月 28 日 (月) 15:00~17:00                                 |
| 場 ところ          | 庁議室  |
| 出席者            | 稲嶺進市長 ・ 座間味法子教育長 ・ 照屋委員厚教育長職務代理者<br>宮城博委員 ・ 大城千代子委員 ・ 名嘉チェミ委員      |
| 欠席者            | なし   |
| 事務局            | 中本正泰教育次長 ・ 大兼康弘 (教) 総務課長<br>宮里琢也 (教) 総務課総務係長<br>島袋ちえり (教) 総務課総務係主事 |
| 関係部局           | 石川達義総務部長 ・ 金城進企画部長   |
| 関係者又は学<br>識経験者 | なし   |
| 議題             | 議題 1 教育を行うための諸条件の整備その他の教育、学術及び文化の<br>振興を図るため重点的に講ずべき施策について         |

— 議 事 の 大 要 —

| 発言者  | 内容  |
|------|---|
| 稲嶺市長 | はいさい。ぐすーよー。ご苦労様でございます。先ほど事務局からもありましたように第 2 回の開催になります。第 1 回目は組織の見直しという事で色々ご意見をいただいて、その後に行革の組織の検討本部を経て、以前に説明した内容でほぼ相違ないです。ただ、当日説明したことと少し変更があったとのことでした。教育委員会の方は変わりませんが、これまで地域戦略部という名前でやっていたが、それを地域政策部と。戦略というのは少しちょっと強すぎるかなというようなことで地域政策部ということにしました。その地域政策部の中に商工観光の部分で、そこに参事官を配置して商工部門を独立と言いましょかね、強化するという形で当時の説明にはあったかなと思います。その後、色々意見含めて議論がありまして、参事官を置くことについては非常にわかりにくい。この説明の部分を読めば、その意図するところはよく理解できるけれども、いわゆる表、形だけではなかなかイメージがわからないということがありまして。参事官を置いてそこに商工班とか観光班とか企業誘致班とかっていうのを配置するって事でしたが、参事官を部長クラスというところを、局、商工観光局という部長クラスの権限を持った人を配置する総合観光局という呼び方に変えました。そういうところが前回の総合教育会議で皆さんに |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>説明したところと少し変わったところがありましたので、報告させていただきたいと思います。</p> <p>この前の、臨時議会に提案をして議会でも承認をしていただいたという事がありますので、来年に向けてそのように進めていくこととなります。</p> <p>今回、第2回目という事で、今回はこれまでもずっとやってきました主な内容というのは、いわゆる重点施策を決定するにあたって教育委員の皆さん方の意見を拝聴するというようなものでございます。今回は議題としては、教育を行うための諸条件の整備その他の教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策について、いわゆる重点施策というのを議題として掲げる事としています。これからまた議題に沿って進めてまいりますけれども、先ほども申しましたが、今回2回目という事で名護市の教育行政の在り方というものを重点的に来年度に向けて進めていくことを今日は議論していただくという事になっています。それによって予算に反映されていくもの、後は色々な形の事業として提案するものとこれらのことから整理されていくこととなっていますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、シナリオではお一人お一人からご挨拶をいただく事になっています。近況を含めてどうぞまたよろしく申し上げます。教育長から。</p> |
| 座間味教育長 | <p>皆さんこんにちは。教育長座間味です。これまで4年間名護市の教育行政という事で教育委員の皆さんとともにやってきたわけですが、やはり、もう第2期のステージに入るのかなと思っております。これまでやってきたことをやはり形にして、明確にして、そしてまた次の第2ステップに繋げていく大切な時期だと思っております。第1期は主に技能改善。教師の指導力向上というところにスポットを当てて研修の充実等をはかってきたつもりですが、その成果はまだ十分に得られていませんが、もう一方、地域、学校・地域の教育力をどのように高めていくか、その一つの大きな施策がコミュニティスクールという事になると思います。この二本柱がなければ子どもたちの健全育成というのは難しいのではないかと改めて感じております。そういう事で今後の方向性についても4名の教育委員の皆さんとともに将来の名護市の教育について、今しっかりと足元を見つめながら進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>  |
| 稲嶺市長   | <p>はい。ありがとうございます。照屋委員お願いします。</p>  |
| 照屋委員   | <p>今回2回目という事で、先ほどの組織の見直しの中で私たち教育委員会の進めている学習支援係の方を重点的にやるという事で、認めたという事で大変良かったなと思います。この進める中で、やはり学力向上とかそういう風なものを含めていわゆる学校並びにそういう風な学校を支援する施設等を含めて、年々充実をしていってるなど。特にハード面においては着々と充実しているのは大変ありがたいなと思っています。今日の話の中でもICTという、いわゆるハード面の充実というところは大変進んできたし、重点的にそれを施策としてやっていただけたのは大変ありがたいなと思います。先ほど教育長が言ったように、あとはそのハードをどう現場の先生方が使いこなして、それを子どもの為にいわゆる支援をする側がどう取り</p>  |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>扱えるかが課題かなど。ICTにしても色んな教材にしても、それを使いこなして子どもたちにより良い環境づくり。そのためにはソフト面の充実が必要なのかな。先ほどありましたように、昨今の学校だけではという話の中でありますように地域、保護者、学校、共に行政も含めてやらなくちゃいけない部分がたくさんありますので、やはりコミュニティースクール。これは2校で進めていくという事ですが、今後もこれをより進めながら、ソフトの面からしっかりそれを支えていけるような状況を、また今後もこの総合教育会議でも話し合いができればなと思っています。この総合教育会議で話し合いされていくことが、重点の中で目に見えて実現していくというところは大変良かったです。私もその面に向けて、一緒に協力して今後もやっていきたいなと思っています。以上です。</p>   |
| <p>宮城委員</p> | <p>こんにちは。教育委員の宮城です。市長をはじめ石川部長、昨日までの県民体育大会お疲れ様です。そして、おめでとうございます。昨年度の5位の躍進賞から一つ上がって4位という事で素晴らしい成績で、名護市民皆で喜んでいるんじゃないかなと思います。そういう市の皆さんが活躍することが子ども達の教育の活動にもすごく影響するんじゃないかなという風に思っています。そのためにはこれから環境づくりというのも大切な部分ではないかなという風に思っていますので、今後とも一つよろしく願います。今日はよろしく願います。</p>  |
| <p>大城委員</p> | <p>こんにちは。教育委員の大城です。私は久志支所というか、各支所が今度から地域拠点となって地域の力を集約できる場になるんじゃないかとすごく期待しますので、これはとっても嬉しいことだなと思います。また、教育についても、先ほどから出てますコミュニティースクールが屋我地ひるぎ学園と緑風学園が先んじて研究指定を受けてやりますので、ぜひこれを成功させて、この名護市全体の学校と地域と家庭という力を合わせられるようなコミュニティースクールに持って行けたらと思いますので、今日はよろしく願います。</p>   |
| <p>名嘉委員</p> | <p>改めましてこんにちは。名嘉です。先日の市民劇第30回大会おめでとうございます。ちょっとですけど私も参加させていただいて、かぎやで風で参加させていただいたんですけども、とっても良い経験をさせていただきました。それもこうして教育委員となったからお声をかけていただいたので、とても本当に良い経験をさせていただきました。その時にかぎやで風を指導してくださった方たちも、私のお母さん世代の方たちが本当に元気いっぱい、私たち若者、その方たちからすると若い私たちがへとへとになるんですが、いつも一生懸命指導してくれた。そして、昨日また最後に終わった時に、色々お話させていただきまして「地域の事に参加しないとだめよ。地域にいないと関わらないとやっていけないよ。」みたいな話も大先輩たちから色々学ぶ点もありましたので、あんまり地域にこれまでPTA活動は盛んにやってきたんですが、地域のことにはあまり参加してこなかった点もあるので、こういう先生方、教育に関しては私はド素人なので、地域をまとめて地域力を活かして少しでも協力できたらという形でやっていけたらと思っていますので、よろしく願います。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 稲嶺市長 | そうだったんですか。あっちで会ってるけど、顔が全然わからなくて誰が誰だかわかりませんでした。  |
| 名嘉委員 | 何度か市長さんの前通るんだけど、皆顔が真っ白だから。  |
| 中本次長 | 一番真ん中で踊ってましたよ。  |
| 稲嶺市長 | <p>一番名嘉さん目立っているんですね。身長も高いから。そうだったんですか。全然気が付かなかった。失礼しました。</p> <p>これから癖になりそうじゃないですか？</p> <p>ありがとうございました。それでは本日のメインテーマであります議題、教育を行うための諸条件の整備その他の教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についてという事であります。先ほども少し申し上げましたけども、中身としては、次年度、29年度の重要施策として取り上げるべく内容となっていますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p>   |
| 事務局  | 資料説明  |
| 稲嶺市長 | <p>説明は以上でございます。子どもの貧困の話もこの中に出てまいりました。直前に読んだ本、月刊社会教育というものに先ほど目を通してしていると、一番最初にこんなのがありました。給食に出てくるパンを子どもはそれを食べずに持って帰るんですよと、どこかの教育委員会からの報告であったというようなことがありました。そうすると、その子はパンが嫌い食べられないのかあるいはお腹が空いていなくて食べられないのかというようなことではなくて、今晚の夕食の為に給食を持って帰るといってこんな深刻な状況が現実としてあるんですよ。とちょっと来る直前にこんな読んできたんですけれども、ここで貧困の話が出たので。その中でも、子育てとか子どもの貧困とかという事については、いわゆる国も県も自治体においても色んな支援の制度を使って、あるいはプログラム等でもって実施をしている。ハード面でもソフト面でもこういう事が行われている。なのになぜこんな状況が現実として起こっているのかなと。という事は、結局はやっぱり色んなことをやったやっただと言っているけれども、結局は改善されたという実感がないというのが現実ではないかな。あるいは深刻な状況というのが余計ショッキングな形で表に出てくるというようなことが表れている。本当に子どもたちの為にといふのであれば、どんなことを本当はやらないといけないのかというのがありました。</p> <p>この今日のテーマも、議題に挙げられているのも重点施策として今日は議論していくわけですが、これについて先ほど次長からも説明がありました。これについては、行政として組織的に計画的に実施をしていく一つの手立てとして出しているわけですが、それも先ほどちょっと話しました実行というか成果という形で、子どもたちの教育環境、子どもたちの生活をしていく環境にそれが直接本当に子どもたちの為になるようなそういうような実践策を我々は考えていけないといけないだろうなと思います。今日ここにあるように、一つのそれぞれの見出しと言いましょか、そういう形で出されております。その中に具体的に色んな事業とか施策がぶら下がっていて、それを実施していくという事になるとは思いますが、そういう</p> |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>ぶら下がっているところまで含めて色々イメージをしていただきながら、お話が、ご意見が聞ければ良いなと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>ただいまの説明に対して、何かご意見を伺いたいと思いますので、よろしくをお願いします。先ほどの順序で行きますか？</p>   |
| 座間味教育長 | <p>よろしいですか。皆さんそれぞれ色んな方向からお話があると思うんですが、私は先ほど言った家庭・地域の教育力というのを考えた場合にですね、やっぱり子どもたちを皆で育てていくためには、やはり共通のビジョンが必要だと思うんです。これまでやってきたことを考えると、そのビジョンを共有する、そしてそのビジョンから目標、具体的にどんな力を付けていくのかというところが明確になってなかったのではないかなとの思いがあります。例えばキャリア教育にしても、2年前に産業部の方から3年間して終わって、次は教育委員会の方でこれを実施しますってなった時に、ただ職場体験のコーディネーターだけじゃなくて、やっぱり教育委員会としてこういう体験を通して子どもたちにどんな力をつけていけば良いのかという事を十分論議しないまま2年間過ぎたように思います。そうすると、一方PTAの方でお仕事企画ですか、要するにキャリア教育のような内容で地元の企業の方に協力を得てお仕事体験を子どもたちにさせるということで、今そういう方向でやっています。これ皆良いことなんですね。そして、また教育研究ところの運営審議会の中で幼保小中高大連携というテーマで答申を頂いた時に、大きな頭にキャリア教育というのが来たんですよ。それは良いんですけど、じゃあこのキャリア教育で何を目指すか今皆がそれぞれそういう形でキャリア教育というものを挙げてきたときに、やはりビジョンを共通に持つ必要があるなと思うんです。これまでそこが十分にされないままにめいめいが活動しているなという事をすごく感じて、29年度はそういう面で課題が明確になっているので、まず皆が集まってキャリア教育を柱にする場合にどういうことを目指すのかという事を話し合う必要があるということをつくづく感じました。</p> <p>実は私、1週間ほど前に高知県に行ってきました。高知は平成9年に橋本さんっていう知事が第2期の公約に教育改革というのを大きく掲げたんですよ。そして、県民総ぐるみで、とにかく各方面から30名の委員を選んで10回にわたって徹底的に現状と課題を洗い出した経緯があるんですね。私は20年経った今、それがどんな形で残っているのかとても興味関心があって、今回高知と言われたからぜひ行きたいということで行ってきたんですけども、やっぱりその時の高知県というのは沖縄県ととっても似ているんですよ。学力を見ましても、小学校は26年度か25年度から平均が上がっているんですけど、中学校は相変わらず最下位を脱出できないんです。とっても似ているんです。そして、特に高知県の場合は、中学校で成績の良い子は皆私立に行くという、またこことは違った流れがあるから余計そこが顕著になってくるんですが、色んな意味で似ていて、それが今どんな形で今の高知県の教育に引き継がれているかというのがとても課題として思っていたので。</p> <p>「チーム学校」というシンポジウムがあったんですけど、その中で香美</p> |

市というところが人口2万6千名くらいの名護市よりも小さいところなんです。そこの教育長さんが6年目の女性の方なんですけども、香美市の「寄ってたかって教育」という事についてお話しなされたんですね。つまり地域の皆が寄ってたかって子ども達をかまってる教育について考える。寄ってたかってというのは面白いんですね。その推進会議の中から出てきた言葉を取っているんです。そしてこれは20年前に県がキャリア教育を柱にしてくださいという事を打ち出したそうです。そのキャリア教育の実際にどの資質を培うのといった場合、3つ。一つは基礎学力の向上です。非常に低いので、高知も。二つ目は社会性の育成。三つ目は基本的な生活習慣。この3つを全ての学校がやってくれと。そして、各学校には開かれた学校づくり推進委員会を持って地域と話し合いを持つようにとあったそうです。それを香美市はずっとその方針に沿ってやっています、という話をなされた時に、これ沖縄の私たちにとってもものすごく大切な視点だなって。そして必要な三つ、3年間、4年間やってみてやっぱり帰結するところはこの3つなんです。キャリア教育とはやっぱり学校と社会を繋ぐ教育なんです。考えてみると。その時に何が重要かという、基礎学力はどうしても必要なんです。学校教育においても社会教育においてもそれからやっぱり社会性ですよ。この3つでできないか。今、PTAも動き出している。学校にもキャリア担当が2年目、3年目を迎える。それから、運営市民会もキャリア教育で幼保小中の連携を繋いだら良いのではないかというのを出してきているんですよ。なので、私はこれは焦点化出来るなと思ってですね。コミュニティースクールもやっぱりそういうところの延長線上にある事なので、今、学校評議員制を平成21年から名護市はやってきましたが、年に1回の研修会と辞令交付なんです。しかもみると参加率が60%に満たないんです。50何名でしたかね？59名の評議員さんがいるけれども、参加している人は半分ぐらいなんです。しかも1回。その中で、共通のビジョンを持てるはずないなと私思ったんです。今回も大きな問題が浮かび上がってきたので、ぜひこれを今、委員会もPTAもそれから運営審議会というのは名桜大の学長さんから幼稚園の指導主事だった松田先生まで、高校も中学校も小学校も全部入っているんです。今チャンスだなと私は思っています。今まではあれもこれもやってきたけどやっぱり一個のものに焦点化して本当に何が重要かという事を焦点化して今後やっていくべきではないかと思えます。

産業部がキャリア教育やるのと委員会がやるのはやっぱり違うと私は今思っています。そういう面で、コミュニティースクールに繋がるそういう風な、それこそ香美市のような皆で寄ってたかって子どもたちをどうするんだというところまでできたら本当に良いなと思っています。

高知県はですね、教組がものすごく強いんです。そういう方たちも皆入っているんですよ。だから最初はもう色んな意見が出てくるわけです。でも、本当はそこまで掘り下げないと本当にそういう垣根を越えて子どもたちに何を培うか、何が重要かという事を話し合わない限り色んな施策をぼんぼんぼんぼんやってもあまり効果が上がらないという事を今回私は強

|      |  |
|------|--|
|      | く思っています。すいません。長くなりました。   |
| 稲嶺市長 | はい。ありがとうございます。「寄ってたかって」というのは良いですね。要するに皆で育てようという事だと思います。ありがとうございます。   |
| 照屋委員 | <p>この中で色々重点的に講ずべき施策という事できましたので、私から3点。よりよい教育環境の整備の(3)。先ほどから出ています、地域とともにある学校コミュニティースクールという、以前からも色々こういう関係のものはやはり進めていかないといけないなというのはどうしても地域全体で解決する環境づくりと言っているんですが、今、地域の教育力というのは本当に衰退し、あるいはもしかしたらもうところによっては無くなっているのかなと感じるようなところがあるんですね。いわゆる地域の中で子どもがいるけど子どもが見えない。子どもの活動が見えない、子どもがどうしているのか見えない、というようなものがよく出てくるし、それから家庭の中でも色々話が出ています。一つは学校単独ではやはり教育を進めることが出来ないというのは以前から話が出ていますので、この件についてはひるぎ学園と緑風学園が研究して出していくわけですけども、その中にもやはり点の状況の保護者とか家庭とか地域じゃなくて、線で繋がる方がその中に行政も教育委員会も含めてですが、その他にもこども政策課とかそういうふうな市長部局も入りながらやっていかないと。おそらく今、学校に抱えている児童生徒の問題はなかなか多方面の多種多様なものがありますので、難しいのかなと思います。ですからぜひ、緑風学園とひるぎ学園がその点について重点的に力を入れていただいて、そしてそれを示して良い方向に学校運営協議会の設置を市内全域に広げるような方向でやっていければ良いなと思います。</p> <p>それからここの中の(7)ですけども、いわゆる混合保育の実施、複数年教育保育の施行という風なものがあります。適正がありますけども、体験の不足、それから就学前の教育の重要化、大切さというのが言われているのは、子どもたちがいわゆる物事を知る、あるいは力をつける段階で体験をせずに小学校、中学校大きくなっていくもんだから、この経験の差はやはり私たち大人になっても、それがいわゆる改善されないという面に繋がっているんじゃないかなと思います。ですから、やっぱり就学前の中で子どもたちが年齢差を超えて体験する、繋がる、それから色んなものを体験する。やはり就前のものでないとこれは人格形成というのも子どもの出来上がる力は8割くらい。あとはできるだけそれに力を増していくという感じのものになると思うので、そういうのでいくと以前から言われている3年保育とか4年保育とか言われていますが、本当に今は先ほども言われていました、地域の中で子どもたちが遊ぶという環境はほとんどないに等しい状況だと思います。それから上下関係も遊びの中で体験すると自然に体、あるいは精神力が出来ていくというのがないと思うので、ぜひそういうものを育てていくにはそれを今後も進めていくというのを体験の状況として就学前の教育をしなくてはいけないのかなと思います。</p> <p>それから、後ろの4ページのスポーツについては宮城博委員が。私も言いたいところがあるんですが控えます。重なりますので。4番目ですね。</p> |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>家庭・地域教育力の再生というのがあります。特に地域にいながらも、それから色々な方の話を聞きながら特に感じます。いわゆる青年会の崩壊。婦人会も衰退なのか崩壊なのか言葉はちょっと考えないといけないと思いますけども。それから子ども会もなかなか厳しい状況にある。それからよく言われています老人会も意外と活発というふうには聞きますが、一部の人がやっているのであって、たった2割、3割だよと。老人会の地区の会長がお話している通り、こういう風な組織というのがその関係がほとんど壊滅状態の状況があるんじゃないかと思えます。ましてや家庭の中にもそれが入ってきていますので、そういう状況の中ではやはり家庭に責任を負わせるのではなく、地域、先ほど言ったコミュニティースクールを含めてその中で行政も含めてもろもろの市長部局も含めてやっていかないとこの状況は厳しいのかなと。ただここで先ほどの組織改正というのがありました。その中で地域政策部、先ほど大城委員がおっしゃいました支部、いわゆる支部として、各支所、久志、屋我地、羽地という風な支所を中心に力を得て、そこから社会教育というのを嵌めていくという形がありました。最初はそれはどうかなという風に思いましたが、ここを拠点にして先ほど大城委員が言いましたように、各社会教育関係団体を網羅してその体制を組んでいって、地域教育力あるいは家庭の教育力の再生というようなものはもしかしたらそこから芽が出てくるんじゃないかと期待しているところです。どうしても単独でやろうとすると、各字とかでやろうとするとやはりなかなか難しい面が見えているところがありますので、そういう風にならぬ各支所を拠点として社会教育主事という市長が各支所に置いている、とても素晴らしいなと思えますけど、それを有効にやりながら支所を拠点にしてそういうものが、それをすることによって先ほどのコミュニティーとかそれから子どもたちの就学前の体験も本当にスムーズに進むんじゃないかと思ってます。それがひいては学力向上にという風なものに今後は深くかかわっていくんじゃないかと思えますので、こういう面をまたどんどんどんどん進めていければと思っています。あとはスポーツです。</p> |
| <p>稲嶺市長</p> | <p>はい。ありがとうございます。就学前の体験の話がありました。実は同じような本の中でこんなことがありました。今、色々なものが崩壊とか衰退という話がありましたが、これはなぜこんな状況が起こっているんだろう。これはやっぱり社会の装置の欠如じゃないかと。社会装置というのはどんなのかというと、家庭には家庭の家庭行事がある。ウガングトゥから始まって一日十五日も含めて、しちぐわち、正月。ここで昔から引き継がれてきた色々なものがあるんですね。例えば地域で人が亡くなったら皆で手伝いするあれは何て言う？ゆいまーるに似た言い方がある。別の言い方がある。共有して皆が出て、その日はそこは皆やっぱり沈んでいるわけだから来客の手当ても出来ないから、お茶を出したり、コーヒーも皆自分たちで持って来て接待したりする。こんなのを含めて社会の装置。社会装置というのは他にもあるんだけど、社会装置というそういうのが実は子どもたちを育てる非常に大事な場ところだと思います。そこでは上下関係もその人たちから学んでいくことが出来る。こういうものが、生活</p>  |



|      |  |
|------|--|
|      | <p>改善という名のもとに皆簡素化されていってだんだん無くなっていって、実際今、自分たちが親から言われて、おじいおばあちゃんから言われてなんかやっているけれども、これは何のためにやっているの？といっても説明できない。やってはいるけど説明できない。というのはこの途中のものが抜かれているからちゃんとしたものになっていないというようなことになったりするんですけども。そういう社会の装置が欠けている。これが今の現実、今の状況を作ったんじゃないかなと。昔みたいにワーバーがいなくなってきた。少なくなってきた。おせっかいおじさんおせっかいおばさんみたいな人たちがだんだんいなくなってきたってのが、今の状況を作ってるなという話が本の中にあって思い出しました。失礼しました。</p>   |
| 宮城委員 | <p>市長がおっしゃっていたのは「リンスー」のことですか。リンスーと言いますね。この辺では葬式なんかの時に、班とか皆さん自然に集まってきて墓の掃除や家の掃除とか色んなことするのをリンスーと言います。</p>  |
| 照屋委員 | <p>班でやります。テント建てたり、班の方で色々準備しますね。</p>  |
| 稲嶺市長 | <p>字というまでは広がらないけど、班でやりますね。</p>   |
| 宮城委員 | <p>じゃあ、僕の方から。まず僕は1点とその他について少しだけお話ししたいと思います。意見・知見含めてですね。まず、学力向上推進のところの取り組みのところで(1)に学習支援指導者の増員という事でございますけども、このことにつきましては学習会でも少しだけ担当の方に質問、要望はしたんですけども、平成28年度から29年度に向けて配置数が先日配られていまして、28年度に学習支援者配置というのが小学校・中学校含めて18名に対し、29年度については20名と2名増でですね。その中には増員を行いますと2名増になってはいるんですけど、しかしその時一番感じたことは配置が小学校全校に1人ずつ配置されています。中学校は緑風さんとひるぎさんは0ですけども、名護中は2で、他は全部1ということされてますけども。その学習支援者配置について、各学校ともすごく学力向上については効果があるという点検評価でも出ていましたので、ぜひですね、それをもっと大幅に思い切って30年度までに沖縄一、これに近づけるためにこの辺りで少し大幅に増員していく必要があるんじゃないか。それから、中身についても小さい学校と大きい学校1という事は、やはり学習支援としてはまだ不平等な部分があるのではないかとということもありますので、もう少し中身を調べて各学校にあって、大きい学校については2名制とか場合によっては3人とかそういう学校の現状、生徒の数を含めて学力等、それから学校での生活等も含めてその配置についての増員は検討する必要がないかなという感じを受けて、学習会についてもお話しさせていただきました。これが1つですね。</p> <p>それからあと1点はですね。このことも含めて色んなところに関係すると思うんですけども、実は11月号の市民のひろばにですね、素晴らしい資料が11月号に載っていて、特集で扱われていた名護市の学力向上沖縄一の学力を目指すというところで、小学校・中学校の成績を含めて出ていますけれども、それよりも特にですね、裏のページの「生活習慣が学力に関係。そして学力を支える家庭の力早寝早起き朝ごはん。」というすごいデータも</p> |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>あってグラフで示されている。そういう事というのは本当に色んなところで広報活動をする上で一番効果的ではないかなという感じを受けています。そして、その下のページにある大宮中学校と久辺小学校の家庭での教育のルールとかマナーとかいうものが写真に出ている。そういうものをぜひ1回限りではなくてこれからずっと継続してこういう形のを市民公報として出していくことが子どもたちの教育に関する親や地域の興味関心というのが高まるんじゃないかという事を強く感じて、その連載について載るかどうかわかりませんが、今後こういったものをぜひ広報活動として取り入れていく方が良いんじゃないかという感じをうけています。以上です。</p>   |
| 稲嶺市長 | <p>ありがとうございます。知らせるという事は一番大事ですのでね。</p>   |
| 大城委員 | <p>先ほどはコミュニティースクールについても、各支所を拠点にしたこれから始まることに対する期待等々は照屋先生にも熱く語っていただきましたので、ちょっと私は視点を変えて、前回宮城委員から問題意識を持っている保護者は色んなことに対して疑問なり反省点なりを持つんだけど、一切色んなことに対して何にも感じない親が一番問題なんだよという話をされたときに、やっぱりいつもPTAで行事をしたり活動するときに学校もそうですけど、やっぱりそこがネックになっているんですけど。今回4番の地域・家庭の教育力の再生というのがありますし、1番目の教育・子育て支援という中で学校・家庭・地域が「目指す子ども像」を共有という文言が織り込まれているんですけど、各PTAが今までもこれからも一生懸命やるんですけども、改善はあまりみられないんですね。なので、やっぱりこういう学校に足を運ばないあまり問題意識を持たれない親とか家庭とかの人たちをどうするかというのに対しての行政からの支援というものがあると、行政だけではなく、学校だけではなく、これが先ほどから出ています行政と学校と保護者でこの問題を、例えば地域で色んな課題は違うと思うので、この3者が色んな手立てを考えてそこに行政からの支援で一括でするっていうよりも、何回かに分けて地道にこういう人たちの支援っていうものがなされていくと、一挙に改善は難しいですけどコミュニティースクールを運営していきながらこれが少しずつ改善されていくことが本当に地域力、教育力の底上げになっていって、それこそ地域の宝である子どもたちのために良い風を少し送り込めないかなという思いがあるので、こういう方向の支援も少し考えていけたら良いのかなと思うんですけど。</p> |
| 稲嶺市長 | <p>ありがとうございます。皆でやるという話で、前に学対は社会教育で事務局をやっているときがあって、北海道の滝川から来た職員によしずみという女性職員がいて、彼女がその担当をしたんですよ。各地域の教育懇談会をやりますよね。そこに毎回出て、話を聞いていって、このすべての地域が終わった後、彼女から出た言葉が強烈だったですね。「皆要求ばかりしている。親は先生に、先生は親に、あるいは地域はどこに。それぞれ皆要求ばかりやっていて、一緒に出来るところはどこかないかだとか、みたいなどころにはなかなかいかない。皆愚痴であったり要求であったりと</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>というようなところで話が終わって次に進まない。だから結局は成果として上がってこない。」っていうようなこと言っていました。やもするとそういう風な雰囲気もあるさあね。やっぱり家庭は家庭で学校に預ければそれで良いさというような話だったりとか、あるいはこんなものは家庭でやるべき、なんでこんなことまで学校でやるかというようなこととかということも含めて、そういうような一緒に出来るような方向性というようなものをやらないと、さっきの寄ってたかってというようなその話にはなかなかならない。そのへんを皆で作ってあげていきたいなど。ありがとうございます。</p>  |
| <p>名嘉委員</p> | <p>教育子育て支援の中にも出てますが、子どもの貧困ってここ数年のテレビでもこういう本でもなんでもよく聞く言葉で、私、まさか自分が教育委員になると思わなかったので、ただ普通に聞き流していたんですが。いつも子どもの貧困って聞くたびに「子どもの貧困ってなに？それって親じゃないの？」といつも息子たちと話していたんですけど。それに子どもの貧困に対して色々行政が子ども食堂だったり色んな支援してるのはわかるんですが、これってなんなんだろうといつも思っているんですね。子どもが貧困なわけではないんですよね。家庭の環境とか自分の知識のなさなんですけど、いつもテレビや本を見て疑問に思っていたことが「子どもの貧困」という言葉で、先ほど市長さんが言われましたパンを夕食にする為に持ち帰るという環境も、結局は親を正していかないといけない。そういう環境とかそれが良くわからないです。すいません。それと、また先ほど大城さんが言いましたように、結局、前回貰ったスマートフォンのこういったあれとかすべてが学力向上もすべて結局は家庭の協力が必要だし、先ほど言われましたけど意識の高い保護者は問題ないわけではないんですけど、本当に色々頑張るんですよ。大城さんが言ったようにそれを問題にもしていない親たちをどう取り込んで、巻き込んでいくかという課題が本当に永遠の課題かなと思っています。それを話し合っていくのがこの場だと思うんですが、本当に難しい問題だと思って、座間味先生が言われました「寄ってたかって」というのも、理想ですけど難しいかなという現状があるかなと思っています。以上です。</p> |
| <p>稲嶺市長</p> | <p>でも何とかしないといけないだろうなというね。先ほど子どもの貧困っていうけど、本当にじゃあ子どもが貧困かと言うと子どもは豊かかもしれない。金銭的には貧しいのかもしれないけれども、どんなに厳しい場においても子どもが親から離れられないとか、お母さんにどんなに叩かれてもやっぱりお母さんが好きだとか、離れられないという子どもは子どもとしてすごい親に対する愛情がある。叱られてもついていくみたいなのはやっぱりあるからね。パンを持っていくのだって、子どもは子ども心にその状況を認識しているからああいう行動に出ているんだろうから、さっき言ったように出てこない親の方が本当は問題で、それに対する対策であったり、アプローチの仕方であったり、非常に大切なことだろうなと思いますね。どんなに予算をとく大人がとかいっても、肝心なそういう人のところに届かなければ、あるいはそういう人が心開いてくれなければ立ち直るとかというようなことは難しいでしょうね。いかにそういう人たちの心を</p>  |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>開いて一緒に考えようだとか、一緒に歩こうだとかというようなことが出来るかどうかだと思いますね。そういうあったかい施策と言いましょか、あったかい社会というのを作っていかないといけないでしょうね。</p> <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>先ほど重点施策という事で大きく7項目をやりました。それらの一つ一つが具体的に事業として、施策として位置づけられる場合に、これまで委員の皆さん方から意見があったことをしっかり反映できるような形のものにやっていかないといけないだろうなと思います。ここにこれだけのものを書いているのもありますし、意見も出てまいりました。そういう事が100%すべて実施できたら本当に言う事ないわけですが、なかなか厳しいような状況のところもあります。そういう事で逃げるとするのは良い気持ちがしないので、行政として責任を持って対応できる施策、事業を構築していかないといけないなと思っています。そうすることによって、重点施策に掲げられたものが本当に全ての子どもたちのためにというような形でそれが実施できるようにまた頑張りたいなと思いますので、これからも委員の皆さん方からも忌憚のないご意見を頂けるようお願いしたいと思っています。</p> <p>この総合会議を受けて、実際、来年度に向けて事業の計画予算の編成というのがもう始まっております。12月いっぱいには中間のまとめという事でデータのもので数字でという形で積みあがっていくと思います。最終的には1月いっぱい頃が最終的な詰めという事になると思いますけども、今日ご意見を伺ったものは、次年度の予算であったり、私が3月の議会の冒頭には市政方針という事で議会で述べますので、そういうところに反映させていこうかという事をやっていきたいと思っていますので、これからも協力をよろしくお願いしたいと思っています。</p> <p>なんかまた加えて、追加でとかなんかありましたら、言い足りなかったとかありましたらどうぞ。</p> |
| 座間味教育長 | <p>市長、すいません。今、名嘉チエミ委員がおっしゃったことはですね、やっぱり子どもの問題は親の問題なんです。表裏一体なんです。だから学校教育だけやってもやっぱり十分効果が上がらないなという事を感じているんですね。だから地域の教育力のところに、地域・家庭の教育力の再生とありますが、これは前のページのより良い教育環境の整備の(3)と全く重なっていくところだと思うんですね。学校や児童・生徒が抱える課題を地域全体で解決するためにという事で、今回の組織改正もやはりそういう視点で行われると非常にやっぱり地域の身近にいる人たちが動くことによってしか大きな解決には繋がらないけど、やっぱり一番大事なところはそこではないかと思うんです。だから支所に社会教育主事が配置されていて、これまでの家庭教育の支援といっても研修するとかそういう事ではなくて、本当にそこに入っていき、困っている親御さんに子育て支援をするとかそういう具体的なことがあって初めて動くのかなって。そんなに大きく改革はできないかもしれないけど、距離を近くするのは少なくともやり方ではできるのかなという感じで、今回の組織改正も支所が中心とな</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>ってそこに寄ってたかって人が集まってきたら理想かもしれないけど、良いなと思います。でもやっぱりその前提は、皆が課題を共有しないことにはバラバラの取り組みになってしまうという事を非常に感じていますので、そのあたり皆で工夫してやっていけたら良いなと思っています。以上です。</p>  |
| 稲嶺市長 | <p>他にありませんか？</p>   |
| 照屋委員 | <p>地域政策部の中に社会教育が異動していくということで、私たちの中でもどういう風になっていくんだろうと、最初は勉強会しながら進んでいくうちにそういう風な方向で今の戦略とはちょっと違うのか？戦略的にもそういう風にやるとやはり今の状況が打破できるのかなとだいたい感じるようになってきました。この前の話の中にもあったんですが、いわゆる各字に色んな物事を任せるのではなくて、ここに賛同する人たちを集めて、そこに集まった人たちが各支所ごとに各字に下りていくとか、あるいは各字から出来る方々をその課に網羅していくとかいうふうに、いわゆるできる方々から引っ張り込んでいって、その中から家庭の中に入り込んでいくという。よく民生委員、児童委員が手をこまねいているところをそういう方々が一緒になってやっていくという形になっていくと、地域の再生も少し見えてくると思います。それから家庭の中での教育力にも少し手が加えられていくのかなと。やはりどうしても中に入っていく限り、なかなか難しいところがあるので。そういうところで大変私は懸念している。羽地でも婦人会がなくなりつつある。もちろん青年は全く今ありませんので。そういう方々も少しずつ支所の中で取り組んでいって、そして中心になって動きをしながら各地域の字の青年・婦人層を取り込んでいくという形になれば、教育社会教育関係団体とは言いませんけども、そういう力が再生していくのかなと思います。ぜひ期待したいと思います。</p> |
| 稲嶺市長 | <p>地域でもかなり色んな動きが出てきてましてですね。ちばる提案事業という事で各字で自分たちが考えて何かを始めたいというようなことで、それに対して例えば材料費であったりだとか、講師代であったりだとか、直接負担にならないように支援しましょうという事でやっているんですけど。今、かなりの字で提案してきて動いてきておりますし、それから各支所でも前にもお話したと思いますけど、各支所で自分たちで考えて事業を起こして、これを支所が全部やるのではなくて、振興会であったり区長会であったりという皆さんと一緒に事業を推進していくという事が少しずつ出てきています。これで地域力というものが自分たちでできることは自分たちでやろうという動きが出てきているので、それが地域力の向上とか高まっていくことに繋がっていくんじゃないかと思っています。まだ始まったばかりですから、これから区長さんたちの頑張りもあって出来ていけば今心配しているようなこともだんだんなくなっていくのかなと思います。</p> <p>よろしいですかね。おおかた意見も出ましたので、これで協議は終了とさせていただきます。事務局にお返しします。お疲れ様でした。</p>  |

署名欄

教育長

---

作成者

---